

令和4年7月15日(金)

あさひの日だまり

NO.14

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～写真集を寄付していただきました～

ホタルの飛び交う私たちの辰野町

辰野町にお住みの写真家 中谷勝明様 より、写真集「辰野のホタル」を本校図書館に寄付していただきました。12日(火)には、中谷さんがご来校くださり、図書館にて贈呈式が行われました。写真は、たつの新聞に掲載された贈呈式当日の様子と贈呈していただいた写真集のページです。

たつの新聞



いただいた写真集のページをめくると、数年前のほたる祭りの日に、辰野町が多くのお客で賑わっている様子が映っていました。児童が駅前ではブラスバンド演奏をしている様子もありました。本校の児童が踊りの連を作って楽しそうに踊っている写真もあります。出店もたくさんあって、町全体がお祭り一色になっている感じが伝わってきました。子どもたちにとっては1年の中でもしかしたら一番楽しみな日だったのかもしれませんが、「私たちの町には、ほたる祭りっていうとっても楽しいお祭りがあるんだよ」と、大きくなったら周囲の仲間に語りたくなるようなそんなお祭りの様子が写

真を通して伝わってきます。

児童と写真集を開きながらこやかに語り合う中谷さんの姿からは、辰野町を本当に大切に考えられていること、辰野町に対する誇り、そして、それを次世代を背負う子どもたちに伝えたいという思いが伝わってきました。図書館を訪れて写真集を手にした子どもたちが、辰野町の素敵な一面を発見してくれたら、中谷さんも本当に喜んでくださるだろうと思いました。

贈呈式の後、校長室で中谷さんと少しお話をさせていただいた時のことです。お話の中で、以前辰野東小のクラブ活動で写真クラブの子どもたちと一



緒に活動をしていただいたことが

話題になりました。その中で「子どもたちは同じ対象物を映しても、映す方向や感じることは一人ひとりみんな違って、シャッターを切った時の気持ちをみんなの前で発表してもらおうと、本当に子どもたちの感性の豊かさを感じることができるんです。子どもたちって本当にすごいんです」というお話をしてくれました。

中谷さんの話を聞きながら、私も、なんだかシャッターを切った瞬間のその児童の素の思いをぜひ聞いてみたいという思いになりました。そして、そ

の道の達人の方と一緒に活動を通して、子どもたちは、日常の学校生活では決して経験することのできない貴重な経験をすることができることを実感しました。残念ながら、現在、クラブ活動は感染防止の意味もあり、地域の方との交流を控えさせてもらっています。お話の最後に、「来年は何かして地域の方を招いてクラブを再開したいと思いますのでもしそうなったら中谷さんも来ていただけますか」とお願いしたところ、本当にうれしそうに「はい、喜んで」とお返事をいただきました。

～養護教諭が児童と授業を行いました～

背筋を伸ばすことの良さについて

各学級で発育測定の残りの時間を利用して、養護の岩崎教諭が背筋を伸ばして授業を受けることの良さや体への影響について授業を行いました。児童は、背筋が曲がったままの姿勢が体に与える影響を自分なりに想像して発表し合

ったり、養護教諭から専門的な知識を教えてもらったりしながら学習を深めていました。担任の先生も一緒に授業に入っていました。「なんだか今日はみんないつもより背筋がしっかり伸びてるね」と声掛けをされて、みんなで一層背筋を伸ばすクラスもありました。私も後ろから授業の様子を見せてもらっていました。私の前に座っていたひとりの児童の背筋が、時間の経過とともに、だんだんと前に傾いていったのですが、途中で、スッと真っすぐになりました。きっと、「ちゃんとしなきゃ」と自分なりに気が付いたのだらうと思います。



この授業では、養護教諭は自分がモデルになって児童の前で実際に背骨を曲げて見せたりしながら、体への影響を想像させていました。私もその様子を見ながら、前かがみの姿勢は内臓に負担がかかり、内臓の働きに悪い影響を与えるということを実感をもって学びました。

～昆虫教室が開かれました～

ミヤマシジミについて学びました

学校敷地内で身の回りのコマツナギを調査する3年生たち



絶滅危惧種 ミヤマシジミの知識深める

東小3年 専門家招き学習会

長野県東小3年生が1日、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されているミヤマシジミの学習をした。講師として長野いきものネットワーク代表の土田秀実さん、ミヤマシジミ研究会会長の中村寛志さん（信州大学名誉教授）、事務局長の江田慧子さん（関西学院大学助教）の3人が来校。町内に生息する希少なチョウの生態を学んだ。

理科の授業で昆虫について理解を深める学習の一環。3人は順番に講師を務め、1回内には約30分程度の授業を行い、県内に生息するの約60%に当たる約150の種と説明。うち5種は絶滅の恐れがあるとして、ミヤマシジミについては「町内のあるところには、数が減り、今では荒神田が唯一の生息場所になってしまった」と指摘した。

たつの新聞

私はこの蝶に似た蝶を見たことがあるのですが、それが本当に絶滅危惧種に指定されているミヤマツツジなのかどうかはわかりません。子どもたちはどうなのでしょう。ご家族の皆様は本物を見たことはおありでしょうか。

本校のコマツナギにミヤマツツジが飛び交ってくれたら、どんなに素敵でしょう。そして、なんと夢のある話でしょう。何気なく「花が咲いてるな」と眺めていたコマツナギでしたが、これからはちよくちよく様子を見に行きたいと思っています。ミヤマツツジを見かけたらまたお便りで紹介します。